

現代民俗学会第 17 回運営委員会

【日時】：2011 年 4 月 2 日 午前 10 時～

【場所】：東京大学東洋文化研究所

【出席者】：石本敏也、及川高、小熊誠、門田岳久、菅豊、武井基晃、塚原伸治、徳丸亞木、中野泰、古家信平、渡部圭一

一. 会計・予算審議（石本委員）

2010 年度決算と 2011 年度予算について報告され、了承された。

二. 編集委員会（徳丸委員、渡部委員）

1. 会誌 3 号の編集状況

震災により少し遅れたが、年次大会までには刊行できる見込みであると報告された。

2. 会誌 4 号の募集開始について

編集スケジュールを約 1 ヶ月前倒しし、6 月 20 日をエントリー期限、8 月 1 日を投稿期限として募集する方針であることが報告された。あわせてエントリーシートには東日本大震災による投稿の遅れの対応も明記された。

3. 会誌 4 号に向けて

投稿規定および執筆細則の改正案が示され、一部修正の上で承認された（別紙）。

改正点のうち、雑誌のポリシーに関する記載は、投稿規定でなく学会サイトないしメールマガジン等に掲載することとなり、具体的な掲載箇所については編集委員会に一任された。

また投稿規定とエントリーシートの両方で、投稿時に会員資格があり、会費を完納していることを求める文が明記された。エントリー時の入会は認めるが、入会承認後に速やかな会費納入を求めるべきであると確認された。

三. 年会・シンポジウム関連（門田委員、武井委員）

1. シンポジウム

趣旨、発表タイトル、要旨の一部が提示された。

テーマ：「政治・世相・公民の民俗学」

発表者：大塚英志（「『公民の民俗学』は可能か」）、室井康成（「『文明の政治』の地平へ—福沢諭吉・伊藤博文・柳田国男—」）

コメンテーター：菊池暁

2. プログラム・会場その他

年会当日のプログラムと午前発表の発表者・タイトル・司会者（小熊委員）について確認された。世情を鑑み、プログラム上に懇親会を含まないことに決まった。

10 時～12 時	個人発表	持ち時間(1人当たり):発表20分+質疑7分+準備3分(pptは事前にpcに入れるなど周到に準備し、時間厳守)。 <u>司会者を小熊誠委員に依頼</u> (時間管理；総会開始宣言～議長選出まで)。
12 時～12 時45 分～	総会 休憩	
13 時半～	シンポジウム	

「個人発表の発表者とタイトル」

氏名	タイトル
松岡薫	芸能の形成における外来者の存在—祭りに出演する芸人たちとの関わりから—
後藤知美	旅館業の実態と変化にみる「もてなし」—島根県大田市温泉津町温泉津地区の事例から—
前川智子	グローバル化とフランスの民族学
蔡亦竹	「キモチ」が如何に満足されたか—台湾南部の選挙民俗—

会場について、5月下旬の成城大学の利用については問題ないことが報告された。今後も小島委員と連携し、成城大学の状況に応じて対応を決めることが求められた。

サーティクルおよび登壇者に求める要旨やレジュメの締め切りについて確認された。

四. 研究企画委員会

7月の研究会について、震災により延期となった3月の研究会の開催を含めて計画することが報告された。ただし、夏の電力状況が心配である。

五. その他

東日本大震災の被災者支援として、被災地（岩手・宮城・福島）会員の今年(2011年)度会費の減免について、菅委員より提案され承認された。これは今年度新入会員にも適応される。また三県以外でも自己申請での免除も受け付けることとする。

この件については、当会のメルマガ、サイト、会誌で告知する。

六. 次回、運営委員会

当 目までの運営については、今後メールでやり取りし詰めていくことになった。

次回は、7月の研究会に併せての開催を第一候補とする。